

【国土交通省・東京都作成メモ】

第25回 PI外環沿線協議会（概要メモ）

1. 日時：平成15年10月7日（火） 午後7時00分～9時00分

2. 会場：都庁第一庁舎5階 大会議場

3. 出席者：24名

関係者（敬称略）

須山 直哉（練馬） 宿澤 藤子（杉並） 土肥 紀久（杉並） 濱本 勇三（武蔵野）
 村田 あが（武蔵野） 新 守一（三鷹） 富澤 和也（三鷹） 樋上 寛（三鷹）
 遠藤 好照（調布） 川原 徳重（調布） 渡辺 俊明（調布） 橋本 妙子（狛江）
 秋山 光男（世田谷） 江崎美枝子（世田谷） 栗林 勝彦（世田谷）

地元自治体

平野 和範（練馬区部長） 菱山 栄二（杉並区部長） 塩沢 忠彦（武蔵野市部長）
 柴田 直樹（三鷹市部長） 大川 宗男（狛江市部長）

国土交通省・東京都

川瀧 弘之（関東地方整備局道路企画官） 伊勢田 敏（関東地方整備局東京外かく環状道路調査事務所長）
 道家 孝行（東京都外かく環状道路担当部長） 宮良 眞（東京都外かく環状道路担当課長）

4. 傍聴者：約60名

5. 概要：

【話し合いの結果の報告】

- ・7月24日協議会の件からお話し合いをしてきた結果、今回の協議会開催に至ることができた。結果的にPI協議会が中断し、皆様にご心配とご苦勞をおかけした責任を痛感している。今後とも信頼関係の維持に努め、引き続き協議会を継続し、議論を進めていきたい。
- ・先の件について話し合いを行ってきた結果、裏切られた思いも強く、100%満足できる回答とは言えないまでも、本日PI協議会を再開するに至ったものである。今後、運営方法も改善しながら協議会を継続していく。

【環境調査について】

- ・計画が固まってない段階で、今回の方法書を示して、環境調査の方法等についてご意見や情報を求めることとしている。
- ・構想段階だということをより明確に表明していくことが重要である。
- ・アセスメントから必要性の議論を導くには相当の慎重さが必要である。
- ・アセスメントを行っていくには、「無い場合」との比較検討が必要である。
- ・構想段階におけるアセスフローの中で、計画案はどう位置づけられるのか。
- ・9月22日の都の課長曰く「議論の材料を提供するのが狙いで、建設を前提にしたものではない」と言っているが、「必要性の議論の材料にする」と理解して良いか。
- ・PI手法ではアセスのミチゲーションの考え方に則り、住民の意見を評価に反映させることが重要である。
- ・野川流域には狸をはじめ動物が広く移動しており、調査範囲を広くするべきではないか。
- ・中央自動車道の周辺主要道路の交通量について調査を追加されたい。
- ・現地調査について、協議会での議論を踏まえながら、具体的な調査箇所・方法・時期等についての提案をしていく。情報や意見を伺いたい。
- ・計画が固まったわけではないので、予測評価はしないということでもよいのか。
 計画内容が決まらなければ予測は出来ない。計画内容が定まれば今回の収集したデータを用いて予測できるようになる。方法書の中で考え方を示してある。
- ・地域特有の問題は、地域毎で意見交換を行うことも必要ではないか。
- ・環境調査についての議論と必要性の議論はどのように関連つけるのか。今後の議論の進め方について話し合う必要があるのでは。

【必要性の有無（効果と影響）について】

- ・20号にICが設置された場合は移転など地上への影響が大きいため、交通量調査が必要である。

